

学位論文審査の要旨

学位申請者	伊藤 颯姫 人間発達科学専攻2021年度生			論文題目	妄想症状の克服に向けたパイオ・サイコ・ソーシャル・アプローチ ―統合失調症患者の病識・脳構造・社会機能から 健常者の妄想的観念まで―
審査委員	主査:	石丸 径一郎	教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否： 否
	副査:	山田 美穂	准教授		「否」の場合の理由
	副査:	高橋 哲	准教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	平野 真理	准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	齊藤 彩	助教		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博 士 (社会科学)			インターネット公表	<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Clinical Psychology)				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
					※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

<p>本学位論文は、統合失調症患者および健常者における妄想症状について、生物学的、心理的、社会的要因を総合的に検討している。まず、研究1では、統合失調症患者における病識と服薬アドヒアランス、精神症状の関連が検討された。病識の向上が治療への服薬アドヒアランスにプラスの影響を与えることが示され、特に治療と服薬の必要性を認識する病識が重要であることが明らかにされた。また、自身の病的体験を正しく認識することが、精神症状の軽減につながる可能性が示唆された。</p> <p>次に、研究2では、病識の時間的な変化と認知機能の関連が探究された。持続的に病識が低い患者は認知機能が低く、症状もより重篤であることが判明した。この結果は、病識が治療効果や疾患の進行にどのように影響するかについての洞察を提供した。</p> <p>続いて、研究3では、統合失調症患者の脳構造(淡蒼球、尾状核、被殻)と症状強度との関連を検討し、年齢・性別・頭蓋内容積・MRI機種・服薬量をコントロールした後も、淡蒼球の体積と陽性症状の正の関連が見られた。これは、脳の特定の領域と症状の発現との関係を理解する上での重要な貢献となった。</p> <p>その後、研究4では、医師の処方が患者の社会復帰に与える影響が調査された。「統合失調症薬物治療ガイドライン」に従った医師の処方が、患者の社会的活動の増加と関連していることが示された。これは、治療の適切性が患者の生活機能に及ぼす影響に関する重要な知見を提供した。</p> <p>最後に、研究5では、妄想的思考を測定する尺度の開発とその関連要因が焦点となった。この尺度は、被害妄想的思考と帰属傾向を評価し、健常者の妄想的思考に関連する要因を明らかにした。これにより、妄想的思考の理解とその背後にある心理的メカニズムについての新たな洞察が得られた。</p> <p>これらの研究は、統合失調症の病態生理学や治療法の理解に貢献し、また健常者における妄想的思考の理解を深める上で重要な示唆を提供している。統合失調症は、その複雑な病態生理学と幅広い症状スペクトラムから、研究の対象として常に関心が寄せられている。これらの知見は、統合失調症の患者やその家族、そして治療者にとって、より効果的な治療法や支援プログラムの開発に役立つことが期待される。</p> <p>本研究の内容は、筆頭著者として5報の英語論文(Psychiatry and Clinical Neurosciences, Neuropsychopharmacology reports, Schizophrenia, Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports)と1報の日本語論文(お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要)として既に出版されている。</p> <p>学位論文の審査にあたって、臨床心理学、健康心理学を専門とする審査委員により構成される審査委員会を設置した。2023年12月13日に第1回審査委員会を行い、論文の構成や考察の内容について修正意見が出された。2024年1月23日に開催された第2回審査委員会にてさらにマイナーな修正意見が出され、2月12日に開催された第3回審査委員会にて、すべての修正意見に対して適切な修正がなされていることが確認された。2月22日に開催された公開発表会では、すべての質問に対して適確な回答がなされた。</p> <p>審査委員会では、本研究が、統合失調症や妄想症状のメカニズム、症状、社会適応、測定といった幅広い側面に対して、生物心理社会の3側面より包括的に迫ろうとした意欲的な研究であり、学術的に高いレベルにあると結論した。上記の理由により、本論文は博士論文として十分な内容であり、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科において、博士(社会科学)、Ph. D. in Clinical Psychologyの学位を授与するにふさわしいと判断し、合格とした。</p>	
---	--